

5. 2 ND-75XL接続時の注意事項

ND-75XL接続時の対象デバイスとの違い

1. メイン・システム・クロック/サブシステム・クロックによる動作。

- ・メイン・システム・クロック発振停止 (SCC. 3=1) 時

メイン・システム・クロック発振の停止操作を行った場合の相違点は次のようになります。

	エミュレーション	対象デバイス
メイン・システム・クロック発振	停止しない	停止する
ベーシック・インターバル・タイマ動作	X1入力の分周クロックで動作可能 (32KHz ×1, ×2, ×16)	停止する

また、サブシステム・クロック発振に切り替えたのち、メイン・システム・クロック発振を停止させるまでの間に周辺ハードウェアに供給させるクロックが異なります。

	エミュレーション	対象デバイス
供給クロック	32KHz ×1, ×2, ×16	4.19MHz分周クロック

以上に示したように、エミュレーション時と対象デバイスでの動作が異なるため、次の点に注意してください。

① ベーシック・インターバル・タイマ動作

32KHzに切り替える (SCC. 0=1) の前に、BT割り込みは禁止モードにしておき、メイン・システム・クロックに戻したときには、BTを使用する前に必ずスタート命令で割り込み要求フラグ及びカウンタをクリアします。

② 周辺ハードウェア動作

32KHzに切り替える (SCC. 0=1) 前に、内部クロック動作の周辺ハードウェアは割り込み禁止モードにしておくか、または、動作停止モードにしておきます。

2. ウォッチドック・タイマ (WDT) モード。

ASMIS (NS-75XL, ND-75XL) では、WDTモードのエミュレーションはできません。

ソフトウェアがWDTの設定になっていると、ASMISではベーシック・インターバル・タイマ (BT) が動作し、BTの割り込みフラグのセットを行います。

3. SBSレジスタ

SBSレジスタのビット3のエミュレーションはICEの仕様上の問題でサポートできません。